

令和3年度 大学生と集落の協働による地域活性化事業
(伴走支援) 業務実施報告書

竹活用で新たな地域創生の取り組みを

—会津若松市大戸地区—

公立大学法人 会津大学短期大学部 OOTO プロジェクト

2022年(令和4)年2月

目次

1. はじめに
2. 大戸地区の概要
3. 仮説
4. 実施体制
5. 伴走支援事業の概要（活動スケジュール）
6. あいプラについて
7. 活動
8. 得られた知見
9. 活性化プランの提案
10. おわりに

1. はじめに

私たち会津大学短期大学部 OOT0 プロジェクトは、2019 年 6 月に経営情報コースに所属する学生を中心に立ち上がり、3 年目になる 2021 年度はプロダクトデザインや造形教育を専攻する学生、さらには福島県立葵高等学校の生徒の幅広い参加も得て、伴走支援事業を実施した。また伴走支援事業を行うにあたっては、地域パートナーである大戸まちづくり協議会や大戸公民館を始め、会津若松市地域づくり課、会津若松第 3 地域包括支援センター、福島県自然保護課の方々に多くのご協力を頂いた。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防のために、大規模なイベントや食に関する取組みは開催できなかったが、いくつかのイベントを通して大戸地区の方々と触れ合うことができた。活動を通して、振興への理解度の向上や地域の方とのコミュニケーションの取り方など、自分たちを成長させる機会になった。

2. 大戸地区の概要

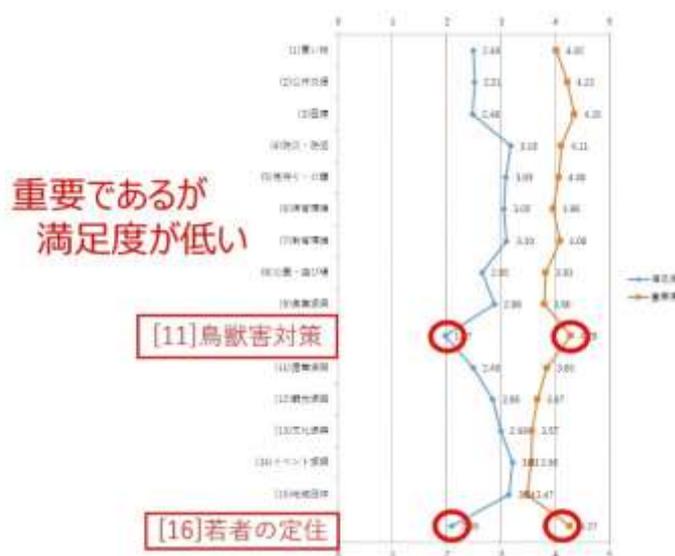
大戸地区は、会津若松市の南部、下郷町との境に位置しており（下図の赤い点で示す）、中心市街地まで車で約 30 分かかる。芦ノ牧温泉や大川ダムが立地しているものの、近年、高齢化と人口減少が加速している。土地面積、人口、世帯数、高齢化率は以下の通りである。

- ・ 土地面積 : 59,644 km²
- ・ 人口 (H31/4) : 1,480 人 (うち 20 歳未満 : 130 人)
- ・ 世帯数 (R2/1) : 681 世帯
- ・ 高齢化率 (H31/4) : 大戸地区 : 47.8% (会津若松市全体 : 30.2%)

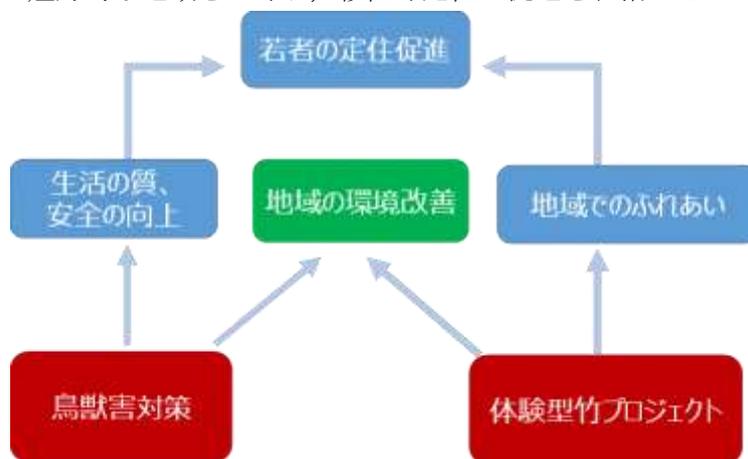


3. 仮説（00T0プロジェクトが提案する活性化のシナリオ）

大戸地区には、芦ノ牧温泉街があり、稲作や果樹栽培など豊かな自然資源に恵まれている。一方、2019年度のフィールド調査とアンケート調査により、住民の関心が最も高いテーマは若者の定住と鳥獣害対策であること、一人暮らしが増えていて近所での会話や子供たちとのふれあいを望んでいること、防犯や防災に女性の視点を取り入れることが安全・安心なまちづくりに必要だと考えていること、若者が長く住み続けられ愛着がわくような環境に変えていくために将来を担う若者が地域の将来を真剣に考える場が必要であることが判明した。

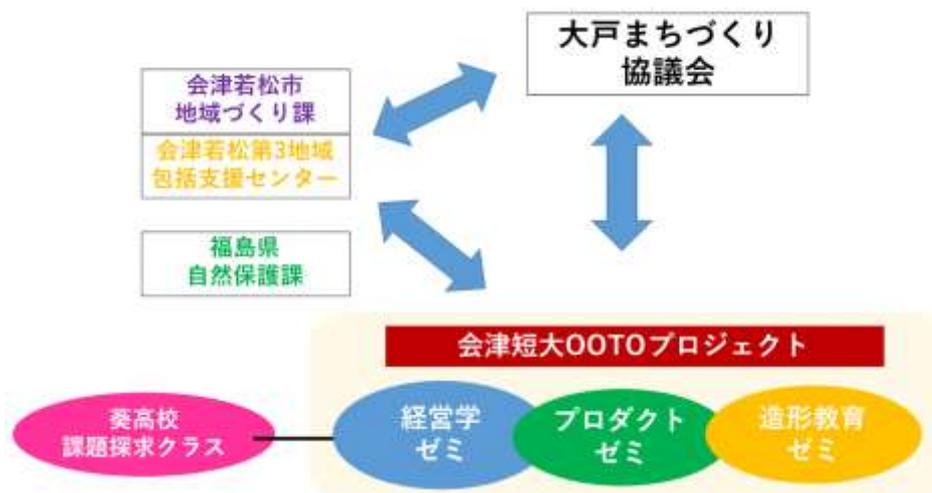


そこで私たち会津大学短期大学部 00T0 プロジェクトは、以下のような活性化のシナリオを提案する。一つ目は、鳥獣対策に取り組むことで、生活の質や安全の向上をはかる。二つ目は一つ目とも関連するが、里山保全とくに竹林の保全活動を通じて、現在は負の財産と考えられている「竹」を地域資源として活用し、体験型の竹プロジェクトを通じて地域でのふれあいの向上をはかる。これら2つの取組みにより地域の環境改善を推進して、最終的には若者に魅力的な地域をつくり、移住や定住の促進を目指したい。



4. 実施体制

次に実施体制である。冒頭で述べた通り、3年目になる2021年度は創設時のメンバーである経営学ゼミに加えて、プロダクトデザインや造形教育を専攻する学生、さらには福島県立葵高等学校の生徒の幅広い参加を得ることができた。特に地元出身の高校生2名が参加してくれたことに、このプロジェクトの大きな意義を感じている。また地域でも、まちづくり協議会が新たに設立され、パートナーとして取り組んで頂いた。



5. 伴走支援事業の概要（活動スケジュール）

2020年、2021年度行った活動は以下のとおりである。

2020年度

12月 大戸まちづくり協議会と協働して、里山に放置されていた炭窯を整備して竹炭と竹酢液をつくる

2021年度

5月 竹炭と竹酢液使った花苗・野菜作り, ロゴデザイン

7月 協力企業の募集, 説明

8月 竹の伐採, 竹灯籠づくり

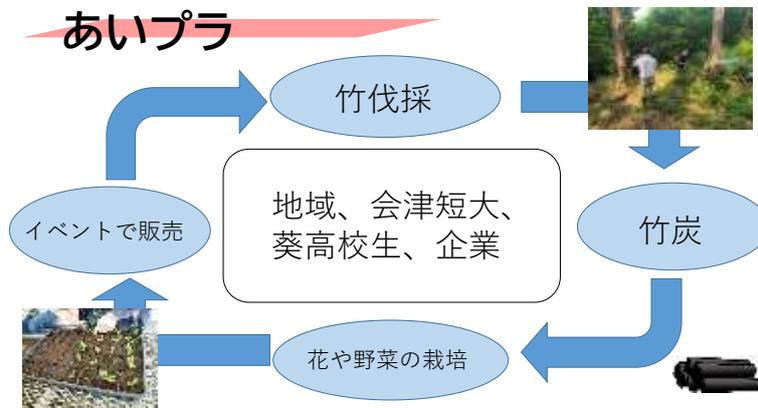
竹ランタン・イルミネーション（芦ノ牧温泉駅）

9月 竹の伐採活動

11月 大戸マルシェ

1月 竹を使ったプロダクトデザイン, 発表会

6. あいプラについて



あいプラは大戸町の鳥獣害被害やそれに伴った竹林保全などの課題解決のための活動である。大戸町の竹を伐採し、その竹から竹炭を作り、その竹炭を肥料として野菜や花を育て、育てた野菜の販売を行い、そこで得た利益を竹林保全などの大戸町の環境活動にあてる。また竹炭を肥料としていることから、炭素貯留農法による二酸化炭素の排出削減に有効であると考えている。

「あいプラ」協力企業募集中！

「あいプラ」とは？
「あいプラ」は、会津若松市大戸町で地域活性化に取り組む若菜生(葵ゼミ)と会津短大生による、「竹を使った循環型環境創造プロジェクト」です。近年大戸町ではインシシによる被害が増加しており、荒れた竹林に生えているたけのこを求めて人里へ降りてきていることが原因の一つになっています。一方、地域では高齢化が進行し、竹林や里山の保全活動が年々困難になっていることから、私たちは、地域のひとと一緒に竹を伐採し、それを炭にして、竹炭を肥料として植物を育てて販売し、その収益を再び竹林を整えるために充当する循環型プロジェクト「あいプラ」を計画し、2021年春より実施しています。

企業様にご協力いただきたいこと

- 「あいプラ」の普及支援、「あいプラセール」協力金のご提供。
- 主に大戸町で行う竹林保全活動、竹炭づくり、竹を活用したストラップづくりなどへの社員様、またそのご家族も含めた参加。
- 「あいプラ」野菜・花を販売する機会や場所のご提供。

※「あいプラセール」は、販売する野菜に関するシールのことです。シールは野菜1kgにつき1枚貼ります。協力企業様にはそのシール1枚につきご協力金として20円をご提供いただきます。その20円はシート代や竹林活動費へになり、この循環型プロジェクトを支援します。

活動している葵高生の声

【葵高生(葵ゼミ)】
学校の活動で地元の課題や現状を知ることが出来るのがとてもいい体験だなと思います。会津短大の方をはじめ多くの人と大戸町について考える事が出来て嬉しいです。

地域、行政関係者の声

【大戸まちづくり協議会】
竹炭には様々な効能があり、活用の可能性を秘めています。地域の環境を守るこのプロジェクトに、たくさんの方が関わってほしいです。

【会津若松市地域づくり課】
鳥獣害対策や里山の環境保全は市としても大きな課題です。学生・地域・行政・企業など、様々な主体が連携した取り組みを期待しています。

SDGsとの関連性について
(SDGs該当目標)
12. つくる責任つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
15. 陸の豊かさも守ろう

「あいプラ」の活動は以下のような点から、SDGに該当する部分があります。

- 竹炭を肥料として活用していることから、炭素貯留農法による二酸化炭素削減につながる。
- また竹伐採をすることで自然環境を整え、また鳥獣被害の減少を目指すことから、環境保全へにつながる。

★問合せ・連絡先
葵ゼミ・会津短大「あいプラ」プロジェクト
a1202022@ic.u-aizu.ac.jp (幹事)
0242-37-2470
会津若松市一貫町大字八幡町田1-1 会津短大内

★公式 SNS
aiplaza

★協力
会津若松市、大戸まちづくり協議会、会津若松市3地域包括支援センター、福島県会津地方振興局



デザイン

福島県立葵高等学校

山内一輝 君

7. 活動

①竹炭を使った野菜作り

昨年度の実証活動で作った竹炭を活用するプロジェクトとして、5月中旬から8月上旬まで、会津大学短期大学部内にある畑で野菜作りをした。苗を植える作業の際に竹炭を肥料として一緒に埋めた。野菜の種類はプチトマト、トマト、ブロッコリー、パプリカである。栽培した野菜は、関係者や一般のお店等への販売を通して、大戸地区のまちづくりへの理解と賛同を募った。



②竹炭を使用した花苗作り

2021年5月から7月に会津若松市中町まちなかにて市民広場にて会津若松市公園緑地協会と一般社団法人 AIZU GATE の指導のもとに会津短大生と葵高校生が花苗づくりを行った。苗を植える作業の際に竹炭を肥料として一緒に埋め、その効果を検証した。



③協力企業様への依頼訪問—「TIS」様



2021年7月20日にスマートシティ AiCT 内のTIS様のオフィスで、大戸町に関する活動とあいプラへの協力依頼を行ったところ快諾して頂き、竹林保全活動でご協力いただいた。

④竹伐採活動

2021年8月6日(金), 2021年9月22日(水) 大戸地区会津児童園の裏山で大戸まちづくり協議会のメンバー, TIS 社員, 会津短大の学生, 会津大学の学生, 会津若松市地域づくり課の方, 若松第3地域包括支援センターの方が竹の伐採を行った。また竹油抜きと輪切りを行った。



⑤竹ランタン制作

2021年8月10日, 11日に会津短大の木工室にて葉山亮三先生(造形教育)と沈得正先生(プロダクトデザイン)の指導もと会津短大生と葵高校生が竹ランタン制作を行った。



⑥竹ランタン・イルミネーション

伐採した竹を使って, 大戸地区と OOTO プロジェクトのPRをするために, 竹ランタンを制作した。加工は8月11日に会津大学短期大学部の木工室を使用して, プロダクトデザインがご専門の沈得正先生(産業情報学科)と造形教育がご専門の葉山亮三先生(幼児教育学科)にご指導頂き, 約100個制作した。そして8月21日に, 会津鉄道芦ノ牧温泉駅前にて竹ランタン・イルミネーションを飾り, 活動をPRした。



⑦大戸マルシェ

2021年11月13～14日にかけて、大戸マルシェが開催された。大戸まちづくり協議会、市地域づくり課と協力し、運営の手伝いなどを行った。



⑧竹を使った生活雑貨デザイン

2021年11月25日から2022年1月27日にかけて、会津大学短期大学部のデザイン実習という授業の一環として竹を使った生活雑貨のデザインを試みた。竹という特殊な形状の材料を用い、教員と学生と一緒にデザインを考え、5点の作品を制作した。主な活動は竹伐採、竹の油抜き、デザインコンセプトの立案、アイデアの考案、実物制作である。



8. 得られた知見

実証事業から得られた知見として以下5つを挙げる。

- ・視点を換えれば問題の原因となっていたものも有効な資源となりうる
- ・住民の関心を高めるためには、商品（竹の生活雑貨、竹炭を使った野菜）やイベント（竹ランタン・イルミネーション）などを活用してコミュニケーションのきっかけをつくることが重要である
- ・地域の状況を伝えることで、県外誘致企業（IT企業）なども積極的に協力してくれるようになり、新たな人とのつながりが生まれる
- ・高校生も地域の課題と一緒に取り組むことで、地域の魅力を再発見でき、地域への愛着意識も高まる
- ・地域運営組織、市役所、地域包括支援センターとの共同作業を通して、協働のまちづくりの意義と手法について理解することができた

9. 活性化プランの提案

(1) 今後も継続したいこと

- ・竹炭を肥料とした野菜や花の栽培, 販売
- ・ブランド化

(2) 今後取り組みたいこと

- ・竹食器の作成, 販売
EX) 皿や箸, またその上に漆加工
- ・竹のおもちゃを作成, 販売
EX) 水鉄砲, 知育用具（知恵の輪など）
- ・竹炭と食材等のセット販売
EX) 肉と炭をセット販売することでバーベキュー活用
- ・VRを使った技の伝承
360度カメラを使って、様々な取り組みの技術を撮影し、VR動画で事前学習・フィールドワークに使用する
EX) 里山保全活動（竹伐採、竹炭づくり）



竹の活用（皿，竹トンボなど）
イノシシ捕獲用のわな，仕掛け
大戸町の景観（大川ダム，会津鉄道の車窓など）

10. おわりに

私たちは今回，竹と竹炭の活用を行ったが，コロナ禍にも関わらず，子どもから高齢の方まで，多くの人に活動に参加して頂いた。またその方々がとても元気に楽しんでる光景がとても印象的だった。そのような方々がますます輝き，さらに大戸地区がさらに発展をしていけるよう，今後も貢献していきたい。

最後に本活動をするにあたり，惜しみない協力をして頂きました大戸まちづくり協議会，会津若松市地域づくり課，第3地域包括支援センター，葵高校課題探求型クラスなど多くの支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

2年代表 蓮沼倫子
1年代表 佐藤ムサシ

- ・会津大学短期大学部 OT00 プロジェクト
蓮沼倫子，鈴木優希菜，石井茜，酒井結衣，佐藤 暖，渡部舞香，佐藤ムサシ，根本芙実，金子未翔子，遠藤理緒，酒井裕香，弓田明佳音
- ・福島県立葵高等学校 山内一輝，満山志帆，宇南山雅乙，井上流那

編集 蓮沼倫子，鈴木優希菜，石井茜
（会津大学短期大学部2年）
監修 青木孝弘（同産業情報学科非常勤講師）
沈 得正（同講師）
葉山亮三（同幼児教育学科講師）